

## 大倉ふるさとセンターの 指定管理者として

7月1日、仙台市の水瓶である大倉ダムほとりの中学校の跡地に古民家（仙台市の指定有形文化財を移築したもの）、管理棟・工房、キャンプサイトからなる「大倉ふるさとセンター」がオープンしました。大倉には中学校があったのですが、平成13年3月に熊ヶ根の熊ヶ根中学校に併合され、廃校になってしまいました。仙台市は学校跡地を整備すべく委員会を組織し、2カ年にわたり検討をした結果、大倉地域の豊かな自然や古来の風習を通じて人々が集い、学ぶ施設づくりの方向性が示され、この度完成したのです。

この地域には自然との対話を通じた様々な営みや祭事が残されており、都会人にとって魅力的な事業化の可能性があります。そういった資源にスポットを当て、環境面でのサステナビリティを保ちながら、学ぶ機会の提供と地域の活性化に寄与する事業を展開することが大きな目標となります。その事業を推進するための母体として立ち上がったのが「グリーンライフ東北」というNPO法人です。指定管理者として大倉ふるさとセンターの管理運営も担当することになり、私も理事をつとめています。

施設のシンボルである古民家では手打蕎麦を中心としたレストラン事業も展開しています。様々な音楽家を招き「古民家で蕎麦と音楽を楽しむ夕べ」という楽しいイベントも企画中です。地場の食材の販売や地域全体で現在持っている調理の伝承、各家庭の工夫された料理の交流の機会を設けるなど、食に関する事業化や食育も大きな柱として位置づけています。みなさんも是非一度大倉ふるさとセンターに足を運んでみませんか？

せんだい・みやぎNPOセンター理事 針生英一

### 内 容

団塊の世代&新卒座談会  
センターサロン、第8回通常総会案内  
らくだのブック、BOOK、事務局活動報告、など



イラスト 千葉やす恵

ご感想  
お待ちしております!

# 団塊の世代 & 新卒 互いを生かす働き方とは

～せんだい・みやぎNPOセンター新スタッフ座談会～

せんだい・みやぎNPOセンターには、この1年に<団塊>と<新卒>の両世代をはじめとするスタッフが仲間入りしました。これまでは20-30歳代のスタッフが多い職場でしたが、現在は20歳代から60歳代までと各年代が揃いました。

他方、地域や社会を見てみると<2007年問題>や<若者の社会参加>が叫ばれています。そこで今、私たちNPOの中間支援組織のスタッフはどのように仕事の意味を見だし、互いを生かし合ったらいいのかを話し合ってみました。

## 出席スタッフ紹介

- 団塊チーム                      □新卒チーム
- 小林正夫                              千葉やす恵
- 関口憲一                              高橋陽佑
- コーディネーター：加藤哲夫（団塊チーム）

### ●年代による職業観の違い

加藤：はじめになぜ、せんだい・みやぎNPOセンターに勤めようと思ったか聞かせて下さい。では、新卒のみなさんからどうぞ。

千葉：私は、企業に対して、重圧や役割分担的なマイナスのイメージが大きくありました。父が団体職員で、その苦勞を聞いていた影響だと思えます。それで、自分には無理だと思えました。また、学生時代に、NPOとの接点があったことも志望するきっかけになりました。募集はHPで見つけました。

高橋：私は、企業が何か自分にじっくりこなかつたことと、父に奨められるままに公務員になることも気が進みませんでした。第三の波としてのNPOを知り始めた時に、HPで募集を見つけてきました。

加藤：そうですね。お二人ともHPで見つけたのですか。では、団塊の世代の方はどうでしょ

うか。

関口：私は、長年務めた会社が外資に売却されたので、再就職しました。しかし、家の事情で2年で辞め、次の職場を探していました。次は人のためになるような仕事がしたいと考えていたところ、せんだい・みやぎNPOセンターのスタッフ募集のチラシを見つめました。「社会を変えたい人、是非」という文面でしたので、やる気満々で応募しました。ですが、最初の二週間で経験や知識の差を感じ、最初はめげましたが・・・。

小林：私は会社を早期退職し、一度転勤で住んだことのある仙台を永住地として選びました。そこで、何か生きがいを持って働ける場所を探していました。NPOで働くために通信講座を受講し勉強していたんですよ。

### ●「無人の荒野」で頑張ろう！

加藤：そうですね。みなさん、それぞれいろいろないきさつがありますね。それぞれの方が、全く知らない世界に入り、知識や経験のギャップがあるかと思いますが、この世界はまだまだ無人の荒野です。是非とも、一花も二花も咲かせてください。

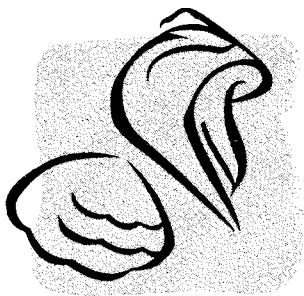
では、団塊の方は前職と比べて感じるNPOの違い、新卒の方は初めて仕事をして感じて

ることを聞かせて下さい。

**関口**：企業に勤めていた時、入る情報の幅はそれほど広くはありませんでした。当センターの仕事は不特定多数を対象としているので、情報が限定されません。また、NPOを学んでから、私の社会一般の見方に関しての視点が変わったので、前の会社の人との話が合わないと感じるようになりました。

**加藤**：企業にいと、情報がフィルタリングされるので、「視点が限定されやすい」ということがありますね。

**小林**：私は、前の会社では努力と工夫が数字に反映され易い営業の仕事をしていました。それと比べると、ここでの仕事は数値にしにくいと感じます。また、私も最近前の会社の人と集まるとむかしの話の繰り返しで発展性がないなあ、と感じることが多くなりました。



**加藤**：お二人とも、前の会社の人と話す、話が合わなくなってきたんですね。本当は、お互いに、関心がある事や取り組んでいる事でお話できるといいのですけどね。また、小林さんがおっしゃった、NPOのマネジメントに関してですが、数字によって目標を管理する目標管理型の手法はNPOにもあります。けれど、これをやれば全てうまくいくとは限らないので、他のやり方と組み合わせることが必要なのだと思います。

さて、新卒のみなさんはいかがですか？

**高橋**：同級生はまだ研修期間中なので、任せてもらっている仕事の量は、自分の方が多いと思います。彼らと比べて仕事との関わり方が違うなと思います。

**千葉**：同級生で特に女性で事務職の友人と話し

ていると、仕事の意味がわからないということをよく聞きます。私たちの仕事は「なんのためか」ということをクリアにするように言われるけれども、他の組織では「とりあえずやれ」と言われるようです。

### ●「仕事の意味」を考える

**加藤**：本当は、企業の方でも仕事の意味を感じられるようになるといいんです。いい企業はそうなってきましたね。

さて、団塊の世代のみなさん、こんな新卒の意見を聞いて、どう思いますか？団塊の世代のみなさんは、他の選択肢のない中で企業に入ってがんばってきたわけですが、新卒の方々は、企業に入らないいうちから「何か嫌だよな」ということを言っていますが。

**関口**：ある程度は共感できます。私の時代は、企業での働き方の中で、ある程度組織が守ってくれた部分がありました。もちろん、その中で努力もしましたが、甘えもありました。けれど、リストラにあい会社に裏切られたような気持ちです。もし、会社が「自分のために働きなさい」と言ってくれたら、資格を取るなどという方法を取ったのに、と思います。「会社は誰のものか」と本気で考えましたね。

### ●会社・NPOは誰のものか？

**加藤**：これからは、自分自身が必要とされるような人間にならないといけないのですね。そういう意味では、関口さんの世代は会社に裏切られた最初の世代なのかもしれませんね。関口さんの「会社は誰のものか」という問いに関してですが、社会における一般的な回答は今のところはあります。

アメリカ流の「株主のものだ」という回答は一つの見解にすぎなくて、最近では「ステークホルダーマネジメント」と言って、特定の誰かのものではなくて、複数の利害関係、株主のものであり、従業員のものであり、経営者のものであり、社会のものであり、地域社会のものである、という考え方があります。日本の従来

の経営観にも近いところですね。

では、NPOは誰のものでしょうか。NPOは誰のものでもないんです。複数の人が関与しているけれども、直接誰かのものではなく、社会のものである、それがNPOです。社会の人々に負託された意思のある人が、意思決定に参加をして総会を開いたりするのが、NPOという公共の器のしくみなのではないかと思います。NPOは会社にとってかわるわけにはいかないのですが、NPOのしくみのあるべき姿に追求していくと、会社が公器である、という部分を高めることとなります。これがCSRという考え方です。

このCSRの考え方が強くなれば、問い直さなければならないこともいろいろ出てくると思います。例えば、「株主が会社を売却して利益を取る」ということが、会社の資本や設備を売買するという意味ではなく、人間が売買されるのを肯定する、ということになるわけですから、それはやっていいのか、と問わないといけません。これは昔から言われてはいるのですが、これまではあまり誰も自分のこととして考えてこなかったわけですね。しかしM&Aが進むと大きな問題になってきています。



### ●「仕事+市民活動」で経験を積む

加藤：では、二つの世代をどう生かしていけば良いと思いますか？また、「今年の抱負」も含めてお願いします。

千葉：私は、自分が得意なことをアピールしていきたいと思います。こういった姿勢で仕事をするのが次の相談や依頼につながると思うので。また、「当たって砕ける」をモットーにビ

クビクセずに窓口業務に励もうと思います。

加藤：「考えすぎない」ということと「相手に聞く」というのがコミュニケーションの極意なんです。相手に確認を取れば、たいていは聞いてくれますから。高橋君の方はどうですか？

高橋：私は、それぞれが持っている人のつながりを出会わせることで、お互いを生かしていければと思います。市民活動の経験自体は少ないので、活動に参加しながら関わっていききたいと思います。

また、大学で私は経済学を専攻していたので、経済学でNPOを見ることができないか、と考えています。地域社会は、国がなんとかしてくれるわけでもないし、市場の原理だけでもないなと感じているので。

### ●「輝ける団塊」でいこう！

小林：私は、団塊の世代の方々が当センターを使う時などに、話しやすい存在として活躍したいと思います。今は初めての業務に取り組み、新しいことをどんどん覚えている最中ですが、マンネリにならないよう、がんばっていききたいと思います。

関口：私は、「ここが自分ではできない」という苦手な部分をスタッフの方に知ってもらった上で一緒に働き、その上で活躍できたらなと思います。

また、常に自分が若い世代から見られていることを意識し、「輝ける団塊」を目指して実践していきたいと思います。「団塊の世代がこういうところで働く、いいだろう！」という所を見せつけていきたいと思います。

加藤：それぞれの個人が組織にとって必要とされる人材になることが大切ですね。NPOは価値観が多様である、ということが価値なので、いろいろな人の意見を聞く機会は多いですよ。頭を柔らかくして互いを生かしあってほしいと思います。（記録：大友和佳子）

**報告**  
**セナードサロン**

■2006年5月25日  
第1回 NPOリンピック

5月は、初の試みであるスポーツを通じた交流企画を開催しました。(財) 仙台市勤労者福祉協会のスポーツ大会助成を利用し、(特活) 都市デザインワークス、(特活) ソキウスせんだいと共催のもと、21名が参加しました。

エル・パーク仙台スタジオホールを会場に、借り物競走・二人三脚・反復横とび・スプーンリレー、そして、イナバウアーコンテストの5種目にチャレンジ。活動分野も様々なメンバーで1チームを構成し、それぞれに戦略を立て各競技選手を選出。「反復横とび」では、スーツの裾を靴下に押し込み必死に頑張る姿やスタッフの飛び入り参加もあるなか、最高回数は50回(20秒間)。「イナバウアーコンテスト」では、思いおまいの姿で演技をする姿に荒川選手もビックリ!? 技術点・芸術点とも高得点を出す選手が続出でした。

すがすがしい汗をかいた後は交流会で一息。交流会では、即興の手品披露や名刺・チラシ交換が活発に行われ、互いの頑張りやねざらいながら大いに会場は盛り上がっていました。

NPOスタッフには体力が必要。日ごろ培った体力を思い切り発揮したい方、新たに生み出した技を披露したい方、4年後の第2回開催(?)でお会いしましょう。(渡辺幸代)

■2006年6月22日  
地域の住みやすさ・喜びを倍にする!  
町内会とNPO・連携しましょう会

多様な分野で活動するNPOと昔からの地縁組織として地域のための活動をしている町内会。地域をより住みやすくするために、どんなことで手を握り合えるだろうかと企画しました。

NPOから9名、町内会から5名、さらには行政からの参加もありました。まずは、自分の所属する団体の「強み」を自己紹介とともに発表してもらい、町内会とNPOの事例紹介がありました。

その後、2つのグループに分かれて、それぞれの「強み」を踏まえて「協力できたらいいこと、手を握りたいこと」をテーマにワークショップをしました。その中では、情報の共有、NPOと町内会との交流のしくみづくり、リーダー研修、地域でのコーディネート、イベントや楽しみの企画や実施、防犯・ごみ問題など積極的な意見とともに、連携にあたってはお互いの顔が見える関係づくりが大切であるという意見もだされました。

町内会とNPO—それぞれの状況が互いに関わりあえ、参加者は自分の地域を見直す機会にもなったようです。また、参加者からは継続開催の声が上がるなど、今後のそれぞれの活動のヒントや広がりを考えられるサロンとなりました。

(伊藤浩子)

**総会は  
9/9!**

**新サポ  
ートセン  
ターで  
会いま  
しょう!**

5月・6月総会を終えた皆さんは、いまごろは今年の事業にすっかりシフトして活動されている頃ですね。当センターは、6月30日に平成17年度が終わり、現在、総会の準備が着々と進行しております。

今後の予定は  
◆7月の理事会にて2005年度決算報告・事業報告と2006年度予算案・事業計画案の承認→  
◆8月上旬に監査→◆8月下旬総会資料を会員に発送→◆9.9に総会  
となります。また、総会のあとには、当センターの山田晴義理事(宮城大学教授)にお願いして、「コミュニティの自立と経営」というテーマで講演会を開催いたします。

ところで、今年の総会と講演会の見どころは、  
1、7年目を迎えたサポート資源提供システム

の成果

- 2、指定管理者として運営している、仙台市市民活動サポートセンターの移転をめぐる動き
- 3、都市や農山漁村におけるコミュニティ支援と中間支援組織の関係

以上、3つが大きいポイントです。また、県内で多発してしまったNPO法人の不祥事についても、皆さんと意見交換するといった時間を持ちたく思います。

今年の会場は、移転したばかりの市民活動サポートセンター。どんな建物に移転したのか、どんな会場で開催するのか、ワクワクもの。総会後のオプションで、理事が新サポセンの館内案内を実施することも検討中です。今年こそ、年に1回の総会に足を運んでください。合言葉は、「9月9日、新サポで会いましょう。」ですよ。(紅邑晶子)

BENYのはみ出しエッセイ ◆らくだのブクブク◆ vol.22

「プチ・リトリート」はいかが 常務理事・事務局長 紅邑 晶子

NPOのマネジメントについて学んでいたアメリカでの講習で「リトリート」という言葉を知りました。それは、いつも活動している仕事場から遠くはなれて、気持ちの良い高原や海辺で日常から隔離され、まさに隠れ家のようなところでリラックスして研修や会議を行うことを彼らはそう呼んでいました。わたしは、帰国したらぜひ「リトリート」を実践しようと思いました。

そこで、当センターでは、毎月行う理事会を年に1度は郊外に一泊するリトリート形式で行うことにしました。緑の多い山間のリゾートホテルでの開催は、そこに向かうまでの道のりもちょっとウキウキさせるものがあります。また、クリエイティブな話もしやすくなりましたし、会議以外の交流の時間もあるので、むしろそちらが楽しみというところもあります。

これは何も仕事ばかりではなく、個人で

も必要なことだと思います。仕事のできる人は、とくに上手なリトリートをしていますが、わたしはようやく昨年から意識的に実行しています。気が付くと、結構なワーカホリックになっていた自分を解放することと、新しいエネルギーを調達する必要を感じたからです。

わたしのプチ・リトリートは、気の合う仲間と温泉や海辺の近くに旅をしながら、共通の気になる話や悩みについて真剣に話し合ったり、同時に、おいしいものを楽しく味わったりというものです。そうそう、キャンプはまさにこのお手本かも。仕事から解放されて、自分ともじっくり向き合えるし、仲間や自然からエネルギーをかなり充電してもらえます。自分を生かすためにも、組織を生かすためにも、楽しい「リトリート」をお勧めします。

BOOK

日本という国

小熊英二 著  
理論社 発行

二二〇〇円(税別)

この本の帯には「中学生以上すべての人の」というフレーズがあるが、本書では明治維新から現在にいたる日本国について、主に「教育」と「戦争」にポイントを絞って振り返り、今日の日本の軍事・外交における立場が分かりやすく述べられている。

なぜ私は、この本を手にしたのか？

それは、新聞・テレビを通じて、例えば、教育基本法改正論のなかでの「愛国心」という言葉であるとか、領土問題、在日米軍移転、靖国問題、そして憲法九条のことなどが、最近気になり始めたからである。

本書は、歴史を振り返ることとこれらのことを考える上で、材料を与えてはくれるが、今後「日本という国」が、どうあるべきかは明言していない。結びに「これからの『日本という国』をどうするのがよいか、そ

れは君自身が考えて欲しい」とあるように、一人一人に問い掛けるものになっている。ただ、本書を読んで私が感じるところとしては、今後国際社会で日本という国が憲法九条を見直し、アメリカとの同盟関係を強化していくのか、それとも憲法九条を継承し、アジア諸国との協調路線で行くのか、どちらかというところの立場で述べられているのかなと思う。

いずれ「日本という国」が国際社会でどのようなポジションに身を置くのか、必ずしもこの二者択一にはならないかもしれないが、私たちは憲法改正という形で未来を選ばなくてはいけない時が来ている。本書は、この時、どうするのがよいかを考える一助になってくれるように思う。

(小松敏成)

活動  
報告

## 事務局活動報告

(2006.4/22~6/30)

## ■事務局/自主事業関連

- ・ 評議員会 (4/25)
- ・ センター会議 (4/26・5/31・6/28)
- ・ 英国調査報告会「イギリスのコミュニティ再生策に学ぶ」(4/27)
- ・ 仙台市市民活動サポートセンター全体ミーティング (5/9・17・6/8・20)
- ・ 「協働の強化書」研究会 (5/17・6/14)
- ・ 大町全体ミーティング (5/18・6/15)
- ・ 戦略会議 (5/18・6/15)
- ・ 理事会 (第85回:5/19 第86回:6/20)
- ・ みやぎNPO夢ファンド「公開審査会」「監査」(5/20・21・6/26・27)
- ・ サポート資源提供システム運営委員会 (5/23)
- ・ センダードサロン「NPOリンピック」「町内会とNPO・連携しましょう会」(5/25・6/22)
- ・ PCブリッジNPO視察 (5/26)

## ■NPO/企業関連

- ・ 宮城大学非常勤講師 (4/24・25・5/8・22・29・6/5 加藤)
- ・ SSCS「説明会」「入校式」(5/10・6/18 紅邑)
- ・ NPO支援センターやボランティアセンターの支援力強化のための2日間「7つのチカラ・無限の一步」/主催:公益・非営利支援センター東京 (5/14・15・16 加藤)
- ・ (財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク評議員会 (5/15 遠藤智)
- ・ 全労済環境基金審査委員 (5/25 加藤)
- ・ 東北公益文科大学「コミュニティビジネス起業論」講師 (5/27・6/3・17 加藤)
- ・ 調査報告会/主催:(財)東北開発研究センター (5/30 加藤)
- ・ HIVと人権情報センター総会記念講演 (6/4 加藤)
- ・ 「小さな親切」運動宮城県本部総会講演会 (6/7 加藤)
- ・ 東北放送番組審議会 (6/9 紅邑)
- ・ 山形県子育て支援ビジネス研修会 (6/12 遠藤智)
- ・ 尚絅学院大学総合人間科学部講師 (6/22・29 加藤)
- ・ NPO/NGOに関する税・法人制度改革連絡会総会 (6/26 黒澤)
- ・ (特)宮城県断酒会ワークしんせい開所式 (6/30 加藤・青木)

## ■自治体関連

- ・ 廃棄物対策審議会 (4/25 紅邑)
- ・ 雨宮キャンパス跡地に伴うまちづくり検討委員会 (4/25 紅邑)
- ・ 平成18年度千葉県「NPO主体の新たなまちづくり事業(栄町)」「ひとりの困った」から「みんなの困った」へー市民参加のまちづくりをめざしてー/主催:千葉県 (4/29 加藤)

- ・ 仙台市情報化推進会議/主催:仙台市総務局 (5/8 遠藤智)
- ・ 仙台市社会教育委員の会議 (5/9 紅邑)
- ・ 仙台市市民公益活動促進委員会 (5/12 紅邑)
- ・ 社の都の市民環境教育・学習推進会議/主催:仙台市環境局 (5/15・6/8 遠藤智)
- ・ みやぎボランティア総合センター運営委員会/主催:宮城県社会福祉協議会 (5/16 遠藤智)
- ・ クリーン仙台推進員研修/主催:仙台市環境局 (5/23・26・6/20・23 加藤)
- ・ (財)宮城県地域振興センター評議員会 (5/23 紅邑)
- ・ 平成18年度階層別研修監督者研修。「NPO~市民との協働について~」/主催:宮城県市町村自治振興センター (5/24・31 加藤)
- ・ メディアテーク運営協議会 (5/25 紅邑)
- ・ みやぎハートフルバンク特別委員会/主催:宮城県社会福祉協議会 (5/25 遠藤智)
- ・ 仙台市環境審議会/主催:仙台市環境局 (5/25 遠藤智)
- ・ アレマキャンペーン/主催:仙台市環境局 (5/27 紅邑・遠藤孝)
- ・ 仙台市市民活動サポートセンター「NPOいろは塾」(5/27・6/23)
- ・ (財)仙台市市民文化事業団評議員会 (5/29 紅邑)
- ・ 平成18年度「山形県NPO中間支援技能整備事業」に係る企画選定委員会/主催:山形県 (5/29 遠藤智)
- ・ (社福)仙台市社会福祉協議会評議員会 (5/30 紅邑)
- ・ みやぎNPOプラザ「入居団体審査会」「運営評議会」/主催:(特)杜の伝言板ゆるる (6/1・23 加藤・青木)
- ・ コミュニティビジョン検討委員会/主催:仙台市企画市民局 (6/2・30 遠藤智)
- ・ 多賀城市市民活動推進会議 (6/5 加藤)
- ・ 山形県子育て支援ビジネス研究会委員/主催:山形県 (6/12 遠藤智)
- ・ 富士宮市係長第2部研修 (6/13 加藤)
- ・ 全国フットパスシンポジウムinながい/主催:最上川流域観光交流推進協議会 (6/17 遠藤智)
- ・ 山形県NPO協働企画提案事業/主催:山形県 (6/18 遠藤智)
- ・ 郡山市立公民館主事部会 (6/18 加藤)
- ・ 市民トラストの森「定例会」/主催:仙台市建設局 (6/18 青木)
- ・ 宮城県総合計画審議会 (6/22 紅邑)
- ・ 多賀城市市民活動団体助成金審査会のアドバイザー/主催:多賀城市 (6/30 紅邑)

## ■相談、ヒアリング関連

- ・ 経営相談 (5/19・6/21 加藤)

## サポート・ご協力 ありがとうございます

(敬称略・順不同、2006年4月22日～6月30日)

### ●平成17年度会員

(正会員) 木村孝、高清水ソフトウェアカンパニー、佐野章二、渡辺一馬

(準会員) 高島紗綾

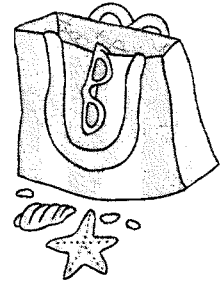
### ●平成18年度会員

(正会員) 木村孝、黒澤学、佐野章二、杉本隼人、本田ふみ

(準会員) (特) 子育てネットワークバルボンさん、高島紗綾

### ●企業・団体協力 (五十音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて) 富士ゼロックス(カラーコピー機を社会貢献価格にて)



### ◆コミュニティビジネス起業家セミナー 起業編

日程：9/19から4回の講座と

個人カウンセリング・交流会

時間：18：30～21：30

会場：仙台駅前 アエル16階 Nestせんだい

参加費：なし 申込締切：9/6

主催：(財) 仙台市産業振興事業団

企画・実施：せんだい・みやぎNPOセンター

担当：遠藤(智)、渡辺、小林、高橋

### ◆2005年度

せんだい・みやぎNPOセンター通常総会

日程：9/9 (土) 13：30～15：30

会場：仙台市市民活動サポートセンター  
6階 セミナーホール

記念講演会：「コミュニティの自立と経営」

時間：16：00～17：30

講師：山田晴義理事(宮城大学教授)

※詳しくは、総会資料発送時にお知らせいたします。

発行：特定非営利活動法人  
せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F

tel 022-264-1281 fax 022-264-1209

E-mail minmin@minmin.org

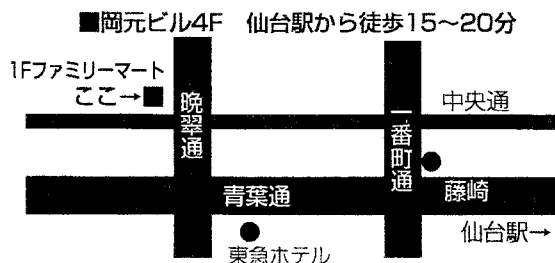
http://www.minmin.org/

会費・寄付はこちらにどうぞ！

郵便振替：02260-3-16325

加入者：せんだい・みやぎNPOセンター

編集スタッフ：遠藤智栄、真壁さおり、小松州子



### みんな編集後記

●私の勤務地であるサポートセンターでは、移転にむけていよいよカウントダウンが始まりました。利用者の皆さんにも「いよいよ終わりだね～」と声をかけられます。終わりではないんです！引越しなんです。9月、バージョンアップした移転後のサポートセンターでまたお会いしましょう！（小松(州)）  
●つい先日、我が家の軒下で、真白い子猫が5匹うぶ声をあげました。愛犬2頭はその声を家の中から聞きつけて大騒ぎ。猫はノラちゃんだしようしよ...。動物の保護などを行っているNPOに相談してみようと思っています。（真壁） ●同郷の方からの誘いで「山形県人会」に参加してきました。山形県知事、山形市長、仙台市長らも出席し華やかな会になりました。会場にはシニア層のお顔が多かったので、今後は県人会の次世代チームでも作り若手で「仙山」をより面白くできたらなあと思いました。関心をお持ちの方はご連絡を！（遠藤(智)）